

文化財学習会

# ふるさと探訪

テーマ 岩部八幡のイチョウと周辺を訪ねる

講師 藤沢 秋義

(高松市歴史民俗協会常任理事)

平成23年10月23日(日)

共催 高松市歴史民俗協会  
高松市教育委員会

# 1 塩江町

塩江町は香川県のほぼ中央部最南端に位置し、県内最高峰の竜王山（標高一〇五九・九メートル）、県内第三位の大滝山（標高九四六メートル）を主峰とする讃岐山脈に源を発する西谷川、内場川、小出川、椀川など、いくつかの支流を合わせた香東川の清流が南から北へと流れる南高北低の急斜面の地形となっています。

町の約八十五パーセントを山林が占めており、よく知られているとおり、温泉を中心とした観光と農林業の町です。「塩江」の地名は、古い時代には「塩之井」と呼ばれ、塩分を含む温泉（「井」は温泉をさす）という意味に由来するともいわれています。

## ※ 塩江温泉

香東川沿いにあり、古い湯元は香東川上流の篝火山麓かがりびにありました。一説には、湧出が潮のように満ち引きしたため、古くに「潮江（江は「井」の意味）」とも書かれました。温泉の由来ははっきりしません。伝説では、天平年間（七二九〜七四九）に僧行基が湿疹を治療したことに始まるとされています。また、江戸時代初期の承応年間（一六五二〜五五頃）、肥後国（熊本県）阿蘇郡大井村の菊池四郎太夫が病を患った際、夢でお告げを受け、それに従って讃岐国井原庄に来て「潮之井（塩江温泉）」で快癒した、という伝説も残っています。

江戸時代には、療養のため入湯することが近郊の人々に知られていたようですが、延享年間（一七四四〜四八）に記された『三代物語』に「潮江 昔温泉あり而し今亡ぶ」とあるように、一時的に温泉が廃れた時期があったようです。その後、天保（一八三〇〜四四）の頃から、「塩之井へ入湯 療治」や「村内長病之者（中略）安原上村 塩ノ江薬水ヲ取寄私方家伝之薬方調合致入湯仕度由」といった記録がみられるようになります。天保十四年（一八四三）には湯元についての争いも起こり、これは大庄屋の取り計らいで解決しましたが、この頃には入湯客が増え、それに伴う宿数の増加と競争がみられるようになったことが分かります。

明治中頃には多い時で大小二十数軒の浴舎があつたようです。また、入湯客が多くなるにつれ付近の民家も内湯をわかし、入湯客を安い宿泊料で泊めていたという話も残されています。東讃からの入湯客が多く、植田・菅沢（現在、高松市）を通り不動の滝を經由してやって来ていたようです。

明治四十四年（一九一一）には、村営温泉場が新築されました。昭和初年（一九二六）には、有志によって塩江温泉鉄道株式会社が設立され、昭和三年に工事に着手、翌昭和四年十一月、琴平電鉄仏生山駅から塩江町（現塩江町安原上東）間に全長十六・一キロメートルの鉄道が開通し、十一月十二日、ガソリンカーの営業が開始されました。当時の様子は、同日付けの『香川新報』（四国新聞の前身）で、「運転時間わずか

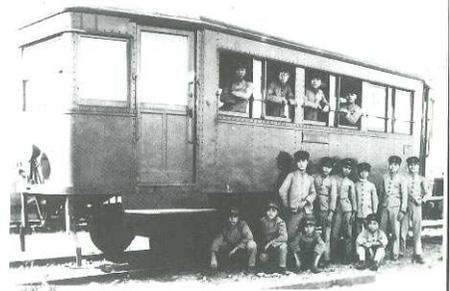
四十分で鉾泉わきいずる阿讃国境の山あいには達す。」と大見出しで報道されています。貨車はなく客車のみの四十人乗りの小さな車体で、「マツチ箱」と呼ばれ親しまれました。鉄道は、この後、昭和十六年（一九四一）五月に戦時下のガソリン不足により廃止されるまで約十二年間営業が続けられ、塩江温泉の観光の発展に大きな役割を果たしました。

温泉鉄道の開通と並行して、新しく旅館花屋の東隣に、当時としてはモダンな洋風二階建ての花屋直営の温泉場が建てられました。建物の一階には、浴場、休憩室、売店、遊技場、理髪室などがあり、二階には演劇場が造られて、温泉専属の少女歌劇が年中無休で開演され「讃岐の宝塚」と称されて人気を博しました。同じ頃、温泉場周辺では菊人形展、菊花展が盛大に開かれ、塩江地区を中心に観賞用菊の栽培も盛んに行われました。これ以後、この温泉は「新温泉」、在来の温泉は「旧温泉」と呼ばれました。

このように、昭和初期は、塩江観光の全盛時代でした。



ガソリンカーと塩江駅（右端）  
〔『新修 塩江町史』から〕



塩江温泉鉄道のガソリンカー  
〔『新修 塩江町史』から〕

## 2 塩江町岩部周辺

塩江町のほぼ中央ないばに内場ダム（昭和二十八年完成）によってできた内場池があり、その少し北側を香東川が北西方向へ流れています。香東川に沿って国道一九三号が走っており、香川県と徳島県を結ぶ動脈となっています。この国道を基幹にして県道・町道・農林道が整備されています。中でも、塩江町岩部周辺は、「借耕牛」に代表されるように、昔からの交通の要所でした。また、かつて塩江で盛んであった林業による林産物（木材、木炭、竹材〔食料品の包装材となる竹皮など〕）の集散地としても栄えました。

## 3 借耕牛

江戸時代後期頃から昭和の戦前頃まで、毎年春と秋の農繁期に、耕作用の牛が阿波（徳島県）から讃岐山脈を越えてやって来て、讃岐の農家に借りられて使われ、これを「借耕牛」と呼びました。讃岐は水田地帯が多く耕牛が不可欠でしたが、小農が多く、飼料用の草地も少なかったため、多くの家では耕牛を飼っていませんでした。一方で阿波は、山が多く草地が多いため、牛が多く飼われていました。水田が少なく畑



香東川にかかる中の吊橋

が多いので農繁期が早く終わり、使い終わった牛を讃岐に貸し出し、その貸賃を玄米で受け取り、少ない飯米を補っていました。

借耕牛は、文政年間（一八一八〜三〇）から盛んとなり、

明治後期から大正年間が最盛期であったようです。阿波か

あいぐりとうげ

ら一人で四、五頭の牛を連れ、徒歩で相栗峠（塩江町上

西）や、清水峠（国道一九三号）を越えて東讃に、また、

美合村（旧仲多度郡琴南町、現まんのう町）の明神などを

経て西讃に入っていました。相栗峠越えをした牛は、内場

を経て岩部に来て、「中追い」と呼ばれた仲介業者の下で貸借契約をし、讃岐側の農家に貸し出されました。そのため岩部周辺は多くの牛や人で賑わい、宿屋や飲食店も繁盛しました。戦前の最高時には、牛の数は、岩部で夏に一、一〇〇頭、秋には九〇〇頭、讃岐全体では夏から秋にかけて八、五〇〇頭に達していたようです。終戦後は、経済変動や農業の機械化により、しだいに数が減少し、昭和三十四年（一九五九）秋には、相栗峠を越してきた牛は二〇〇頭ほどとなって、借耕牛の制度は衰退していきま



背に賃米をつけた借耕牛  
〔『新修 塩江町史』から〕

## 4 公立安原高等小学校

明治維新から第二次大戦勃発前（昭和十六年（一九四一）に国民学校令が發布される前）までの時代、尋常小学校では義務教育が行われたのに対し、公立の高等小学校は任意設置であり、義務教育ではないため、授業料を徴収していました。

明治二十六年（一八九三）までは、山田と香川（塩江を含む）の両郡は高松高等小学校の学区内で、村費により負担金を納めて就学することになっていましたが、当時交通も不便で高松で下宿しなければならず、安原三ヶ村からの入学者は全体で三名とわずかでした。明治二十六年の郡市分離の際、一宮高等小学校、紫山高等小学校が組合により設立され、安原三ヶ村も北部諸村と組合に加入するよう勧誘されましたが、地理的事情による困難から加入はせず、三ヶ村で組合を組織し高等小学校設置を何度か請願したところ、尋常小学校の設備も十分ではなく、入学者も少なかったことから、許可がおりませんでした。やむを得ず、明治二十七年五月に「安原実業補習学校」を設立して高等小学校の代わりとしました。安原上東村長が管理者となり、岩部の徳玄寺を仮校舎とし、三年制で、高等小学校三年課程に準じて教育を行いました。実業補習学校の教育は軌道に乗りましたが、高等小学校を設立することが当初からの念願であり、その後も高等小学校設立認可の運動を続け、生徒の数も増加して明治二十九年に六十七人となったので、明治三十年三月、多難の末、ついに安原高等小学校の設立

が許可されました。実業補習学校と同様、当初、岩部徳玄寺で授業が開始されましたが、校舎として不備があったため、安原上東村大字安原上字川西（現在の塩江中学校の西）の道路沿いに新校舎が建てられました。以後、昭和十一年（一九三六）三月に廃校になるまでの三十七年間、現塩江町だけでなく、現香川町の川東や浅野、現香南町の由佐、現高松市の西植田、東植田などからも入学者があるほどの盛況でした。当時、多くの学校は二年課程で、三年課程の学校は中讃から東では香川県師範学校付属小学校とこの安原高等小学校だけであつたため、町外からの入学者も多かつたのです。安原高等小学校は約二十アールの実習田を有し、実業教育に重点が置かれ、また、女子の家庭科教育にも力が入れられました。

昭和十一年三月、組合立安原高等小学校は廃校となり、二、三年生は同時に卒業、一年生はそれぞれの高等小学校に編入学しました。旧校舎は二棟中の一棟を岩部公民館として徳玄寺前に移転し、昭和三十八年に新制中学校が岩部に統合された際、技術科教室として二年間使用されました。また、旧校地には、終戦後の昭和二十三年四月から昭和三十六年三月、香川高等学校校定時制塩江分校が開校されていました。

## 5 山田蔵人高くらんど清

山田蔵人高くらんど清は塩江町安原下中村の生まれです。身長六尺（約一・八メートル）、力

が強く、弓の名人であったと言われています。『増真上人伝』付録の「山田蔵人伝」では、「増真上人の叔父を山田蔵人といふ。是も中村の人。その先祖は橘姓にして橘氏、判官正成の別族なりしが、南朝滅亡の後、当国へ来りこの所に住みけるが、豪強にて世々□□のよし。」と記されています。また、文禄年間の豊臣秀吉の朝鮮出兵（一五九二〜九三）に際しても、



くちんど  
山田蔵人高木の墓

高木は生駒親正に従い活躍し、朝鮮半島の空き寺から十三仏像、涅槃像、鏡鉢を持ち帰り、安原の最明寺に寄進したとあります。

さらに、弓の名人であったことについては、次のように記されています。「蔵人の家は高山の麓に在て谷深く晝暮らし、盗賊潜み匿れて害をなせり。その中に蔵人を能く知りたる盗有けるが、折々出合して物語などしけり。あるとき蔵人に語りけるは、我とく人の物を盗み取る術を得たり。今戯れに君か家の大金を盗み取るべしといひて、

その後闇夜にまぎれて、蔵人が内に忍び入って大釜をぬすみ取って出行事二百歩許りも隔たるとき、顧みて高声にて呼びけるは、やよ蔵人さま我今かの釜盗みて帰るそといひければ、蔵人弓矢ひっさげ庭にかけ出て、一矢いるべし受けて見よと呼ばはりて兵ひょうと放つ。矢あやまたず賊がいたきたる釜の蓋に当たりければ、又呼ばはりけるは、今放ちたる矢は釜の蓋に当たりたりと覚えたり、また一矢いるべし、汝か首骨に当るそと呼ばはりければ、賊忽ち地にひれ伏して、あな恐ろし吾儕わがせい小人、誠にあやまりたり、その罪許し給ひてよと、大きに恐れわなきて伏したりけりとなり。」

また、五色台の根香寺に残る「怪物牛鬼」の伝説も有名です。昔青峰に人間を食べる牛鬼という怪物がいて、近くの人々が藩主に退治を訴えました。そこで、藩主は弓の名人である山田蔵人高清に命じてこれを射させることにしました。高清は毎日山中をあちこち探して歩きましたが、怪物らしいものを見つけることができません。そこで七日の間根香寺本尊の千手観音様に祈願を込めて一心に祈りました。すると、満願の日について眼光の鋭い怪物に出会い、これこそ牛鬼に違いないと狙いを定めて、とうとう牛鬼を射殺すことができました。高清は牛鬼の二本の角を切り取り、藩主からいただいた米十五俵とともに根香寺に奉納し、牛鬼の冥福を祈りました。今も、その二本の角と牛鬼の姿を描いた絵が根香寺に残っています。

山田藏人高清の墓は現在も岩部東地の田の中に立てられており、墓石には「弓天下山田藏人高清文禄三年（一五九四）二月二日」とありますが、甥にあたる増真上人（一六六三）の伝記には、慶長十九年（一六一四）大坂冬の陣で豊臣方として参戦していたという記録もあります。

## ※ 増真上人

安原下中村の人で、姓は山田といい、山田藏人の弟の子です。早くに僧となり、京都嵯峨の大覚寺で修業した後、讃岐に帰って白峰寺の住職に迎えられ、僧大僧都にまでのぼりました。上人は、松平頼重公の寄進で諸堂の修理を行い、白峰寺の中興の僧といわれました。

## 6 塩江温泉鉄道

塩江温泉鉄道は、1の塩江温泉での記載にもあるように、塩江温泉観光の発展に大きな役割を果たしました。大正十三年（一九二四）七月、高松琴平電気鉄道株式会社が設立され、昭和二年（一九二七）三月に高松・仏生山・滝宮を経て、琴平まで三・三キロメートルの鉄道が開通したことから、香川郡内にも鉄道敷設の機運が高まり、

塩江温泉鉄道株式会社が昭和三年に設立され、昭和四年十一月十二日に営業が開始されました。仏生山を起点とし、舟岡・浅野・伽羅土・川東・岩崎・鮎滝・関・安原・中村・岩部の各駅を経て、塩江を終点とする全長一六・六キロメートルの単線軌道でした。本線は仏生山で琴平電鉄と接続していたため、高松との交通が大いに開け、中等学校（現在の高等学校）通学者には特に喜ばれ、進学者が急速に増え、また、高松から塩江温泉を訪れる人も多くなりました。しかし、昭和十六年（一九四一）四月九日、戦争激化のため軌道を資材として徴収され、全線廃止となりました。

かつての岩部駅は、現在の塩江中学校東川向いにあり、また、終点だった塩江駅は、内場川と香東川本流の合流点の東側にありました。現在も、関、中村、岩部に橋台が残っており、中村、御殿場岩部にはトンネルが当時のまま残っています。

## 7 岩部八幡神社

祭神は応神天皇。合祀祭神一八柱。



塩江温泉鉄道トンネル跡（御殿場岩部）

岩部八幡神社の創始は養老年間（七一七〜七二四）あるいは天平年間（七二九〜七四九）といわれています。古くは現社地の北方、神の上大樟の地に鎮座していましたが、後に現社地の北西山麓に遷座し、その旧跡と考えられる礎石が素婆俱羅社前に見られます。その後、山上に遷座し、明徳三年（一三九二）には細川頼之によって社殿の修築がなされ、鳥居前にあるイチョウもその頃に植えられたものと伝えられています。

文明十三年（一四八一）八月、川田権兵衛尉景安が、川田氏の尊崇している阿波の川田八幡宮の分霊を岩部に迎えて当社に合祀し、一族の守護神と仰ぎました。安原古跡物語に「岩部に正八幡宮あり、川田氏代々の氏神也。土佐乱に消失せしを文禄年中川田権兵衛という者再建立也」とあります。川田氏は、源義家に従い後三年の役で清原武衡を討って武



岩部八幡神社

名をあげた鎌倉権五郎景正の子孫で、阿波国川田郷を領地として姓を川田氏と改めました。子孫の景秀は、讃岐の香川郡安原庄に来て内場に住み、大陰城に拠って勢力を伸ばしました。景安は、その景秀の子で権兵衛尉と号し、岩部に移り住んで岩部城を構え、安原の氏子ともども代々厚く八幡宮を崇拝しました。

その後、元龜・天正の頃（一五七〇〜九二）社殿が焼失し、一時荒廃しましたが、万治二年（一六五九）藩主松平頼重が再築したといわれています。元和・寛永年間（六一五〜四四）には池田氏が祠官となり、延宝三年（二六七五）以降、藩主の命により唯一神道として池田氏が代々奉仕するようになりました。

## 8 岩部八幡神社の大イチョウ

イチョウは岩部八幡神社の石段を登ってすぐ両側に二本立っており、東側を雄木、西側を雌木と呼びますが、いずれも雌株で、実（ギンナン）をつけません。昭和四十六年（一九七二）四月三十日に県の天然記念物に指定されました。樹高は三十三メートルで、幹周は東



岩部八幡神社の大イチョウ

側の大きい方が七・三メートル、西側のやや小さい方が三・六メートルあり、秋には美しく黄葉し、遠くからもその雄大な姿を見ることが出来ます。

大正時代の記録によると、大きい方のイチヨウは根本の直径が約七・二メートル、イチヨウの木としては県下一となつています。

イチヨウの幹からは多数の気根が垂れ下がっており、乳房に似ていることから、母乳の少ない母がこれにさわると乳が良く出るとの言い伝えがあり、産婦の信仰厚く、乳を授かるよう祈願する人も多くあります。

## 9 塩江美術館

平成六年（一九九四）四月二十五日に塩江町立美術館として開館しました。自然光を取り入れた構造の木造建築の建物です。塩江出身の熊野俊一画伯から一八一点の作品を寄贈されたことにより、建立されました。

熊野俊一画伯は、明治四十一年（一九〇八）、香川郡安原上東村小田（塩江町字小田）に熊野米吉の四男として生まれました。幼少より頭脳明晰で香川師範学校に学び、谷



塩江美術館

口国介画伯の薫陶を受け絵画に卓越した能力を發揮します。昭和三年（一九二八）に師範学校を卒業後、昭和七年まで小学校に奉職しましたが、同年七月に絵画に専念するため上京し、正宗得三郎画伯に師事しました。昭和九年九月に二科会に入選し、昭和十一年からは連続入選し、昭和十七年の二十八回展で会友になりました。昭和二十八年二紀会に転じ、昭和三十一年二紀会委員になり、昭和三十八年からパリへ留学し、翌年三越本店で渡欧作品展を開催、昭和五十二年二紀会を退会し無所属となりました。平成六年（一九九四）塩江町に油彩一八二点、デッサン二二二点が寄贈されています。塩江美術館の周辺や美術館の位置する「ホテルと文化の里公園」内では、香川にゆかりのある作家の方々による彫刻作品や句碑を見ることができます。

### く番外編く

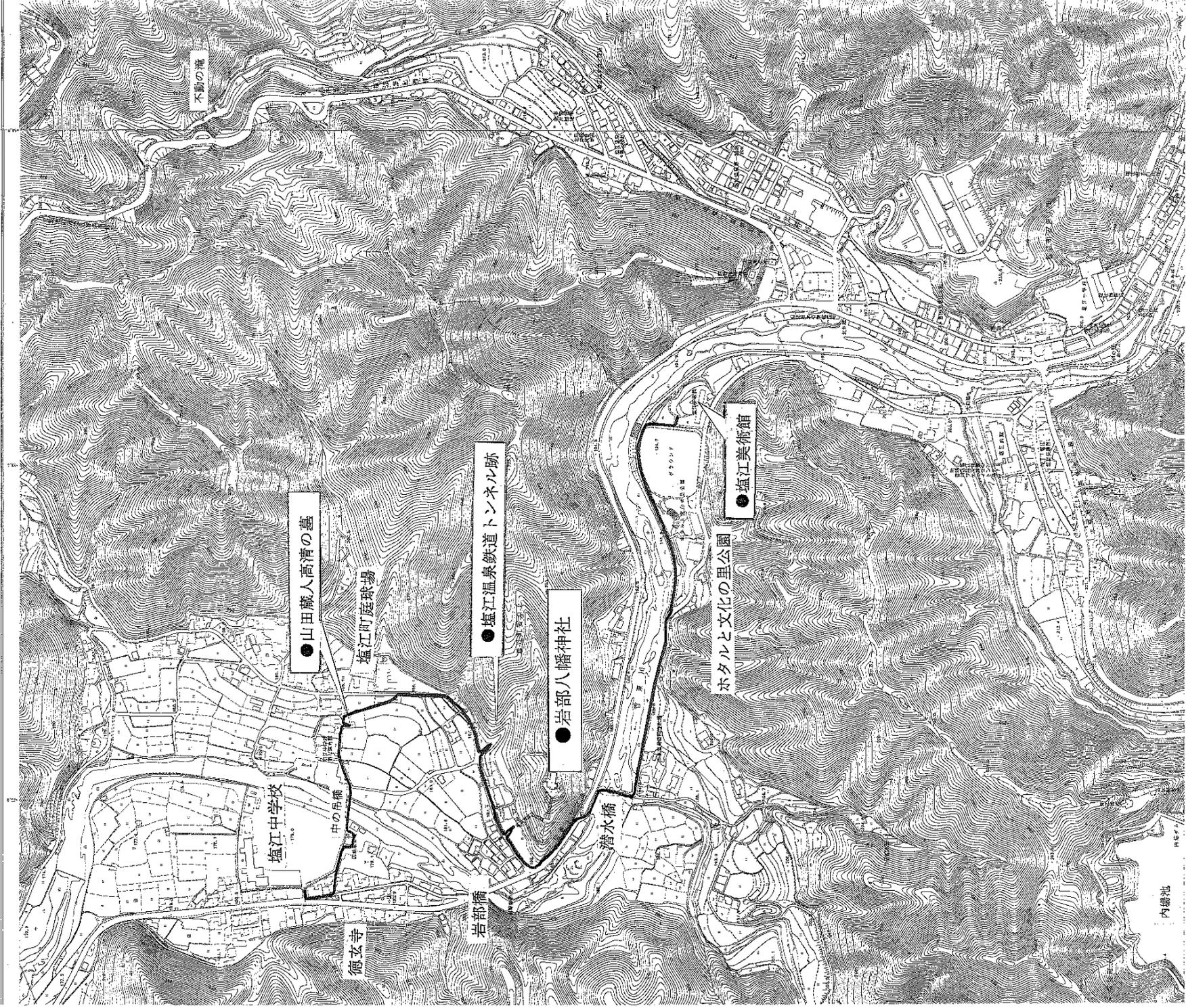
## 10 不動の滝

言い伝えによると、弘法大師がこの滝で修行していたところ、突然、不動明王が現れたので、それ以来、不動の滝と呼ぶようになったそうです。中段の岸壁面には梵字が刻まれており、弘法大師の作と伝えられたり、法然寺忠学上人の作と伝えられたりしています。高さが四十メートルあり、五段をなして落下しています。緑豊かな山あ

いにあり、滝の飛沫で夏は涼しく、市民の憩いの場として整備されています。

【参考文献】

- 『新修 塩江町史』 平成八年八月発行 塩江町（編集 塩江町史編さん委員会）
- 『香川県大百科事典』 昭和五十九年四月一〇日発行 四国新聞社
- 『香川県の地名』 平成元年二月二十三日発行 平凡社



不動の滝

● 山田蔵人高潜の墓

塩江町庭球場

● 塩江温泉鉄道トンネル跡

● 岩部八幡神社

● 塩江美術館

塩江中学校

徳玄寺

岩部橋

清水橋

ホテルと文化の里公園

内巻池

10月23日（日） 塩江町からの復路

こつでんバス 【52】瓦町・高松駅行き】

（岩部バス停） （瓦町・天満屋バス停）

11：37 発 → 12：23 着

13：32 発 → 14：18 着



次回のふるさと探訪は・・・

テーマ 庵治の社寺巡り

とき 平成23年11月27日（日）

9：30～12：00

集合場所 庵治コミュニティセンター

（「こつでんバス・庵治学校前バス停」から東へ100m。  
庵治支所の東側の道を北東方向へ300m。）

講師 渡辺 寧（高松市文化財保護協会理事）

☆広報「たかまつ」11月15日号に開催案内を掲載します  
ので、ご覧ください。

☆天候等により中止の場合のみ文化財課（TEL 839-2660  
「午前7時～開始時間まで」）でお知らせします。

（電話が通じない場合は、「実施」です。）

★集合場所への交通案内★-----

こつでんバス 【73】国際ホテル・庵治行き】

瓦町・天満屋バス停（①のりば） 庵治学校前バス停

8：24 → 9：00

## 「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、  
安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょ  
う。  
(必ず、歩道を歩き、歩道が無いところでは、道  
路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょ  
う。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょ  
う。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気  
をつけましょ  
う。
- 5 文化財や自然を大切にしましょ  
う。